

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.138

2026.9.30 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.138 目次

Refeeding syndrome (RFS : 再栄養症候群) に陥らせないための推奨給餌法	2-7
本州初のトキの放鳥、そして村本義雄氏の功績	8-10
シジュウカラについて	11
事務局日誌	11-12

本州初のトキの放鳥、そして村本義雄氏の功績

全国愛鳥教育研究会 副会長 染 谷 優 児

■2026 年 5 月 31 日、羽咋市での本州初のトキ放鳥の現場にて

朱鷺保護の第一人者である村本義雄氏（以後、村本さん）には、2001 年より本会の顧問に就任していただき、様々なご指導を賜り、今も交流が続いています。

村本さんは、今年の 4 月に 101 歳の誕生日を迎えられました。そして、70 年にも及ぶトキ保護活動の成果として、地元の眉丈山（びじょうざん）にトキが再び舞い飛ぶという、長年の夢がかなうその日が近づいてきました。私は、村本さんの晴れの舞台となるその場に居合わせたい、そして、その風景を目の当たりにしたいと強く思いました。

しかし、式典の一般参加枠に応募したものの選外となり落胆したのですが、遠方からでも見られたらと考え直し、現地入りしました。すると 300m の距離はありましたが、同じ選外の方々といっしょに、放鳥会場正面の道路に陣取ることができました。

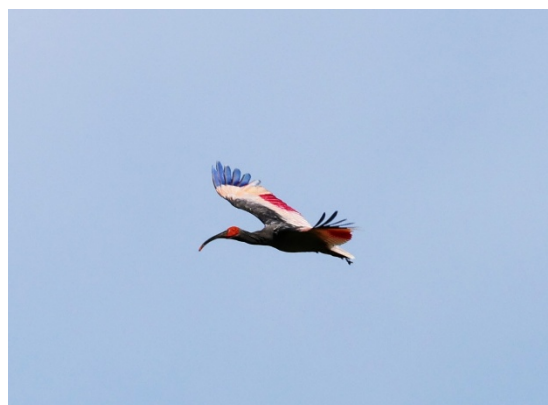
当日の天候はほぼ快晴の好天、風もほとんどなく、絶好の日となりました。

予告どおり 15:25、2 回に分けてケージの扉が開かれ、計 8 羽のトキが舞い上がりました。個体識別のために翼にペイントが吹きかけられていたので、カラフルな印象を受けましたが、野外で日の光に映える朱鷺色を目の当たりにすることができました。

放鳥後、村本さんは、テレビの取材に対して、「心が清々しいというか、トキがどんな思いで能登の空気を吸って羽ばたいていったのかなあと。本当にこの能登に住み着いてくれればいいがなあという、そんな気持ちで遠くへ飛んで行くのを見送っていました。」と口にされました。長年トキに向けて来られた、トキを思いやるお心がそのままに表れたお言葉だと思いました。



トキ放鳥の瞬間



舞い飛ぶトキの 1 羽

放鳥式とその前後の様子は、今もネット上に様々な情報として存在していますので、そのいくつかを紹介します。

○能登地域トキ放鳥記念式典 放鳥式、石川県公式チャンネル

<https://www.youtube.com/watch?v=AiInDHnp2Jw>

放鳥式典がノーカットでまとめられています。全編 18:15 ですが、実際は以下のとおりです。

- 2:27 放鳥開始、1 回目放鳥者が所定の位置につく（村本さんは左端）
- 4:46 1 回目放鳥（5 羽）
- 5:18 2 回目放鳥者（能登の小学生）が所定の位置につく
- 7:04 2 回目放鳥（3 羽）
- 7:45 放鳥終了

○【ニュースまとめ】6 月 1 日放送分 石川・羽咋市で本州初のトキ放鳥 半世紀ぶりの羽ばたき見守って など、テレビ金沢 NEWS



<https://www.youtube.com/watch?v=bl73VxiVlzQ>

放鳥されるトキが陸路、佐渡から前日に到着する様子、式典を前にした村本さんの前日当日の様子、一般参加者の様子、式典の様子、放鳥の様子などを、コンパクトにまとめています。

全編 17:44 ですが、当該部分は 0:00 開始、6:52 終了です。



○石川県観光公式サイト ほっと石川旅ネット 朱鷺の舞う能登 | 半世紀ぶりにトキが石川・能登の大空へ

https://www.hot-ishikawa.jp/blog/detail_747.html

朱鷺の特徴と歴史、なぜ放鳥の地に石川県・能登が選ばれたのか、朱鷺を観察するときのマナー、半世紀越しの願い・・・村本義雄さんが語る朱鷺と能登（インタビューのダイジェスト）



○石川県観光公式サイト ほっと石川旅ネット 半世紀越しの願い・・・村本義雄さんが語る朱鷺と能登

https://www.hot-ishikawa.jp/blog/detail_755.html

インタビューの際の村本さんのお言葉を、ほぼそのままに再録したと思われる全文です。村本さんのトキとその保護に対する正直な思いと情熱と見識とが、そのまま言葉になって表れています。ぜひ、お読みいただきたいと思います。



■村本さんと中国の朱鷺保護活動

村本さんが中国の朱鷺保護活動に打ち込むことになったのは、日本産トキの絶滅がきっかけでした。環境省や保護団体が方策を模索している中、従前から朱鷺保護に情熱を傾けていた村本さんの動きは早かったです。そして、著書の「能登のトキ、1972 年刊」と「写真集 能登のトキ、1982 年刊」を持参したことで、トキの研究者として認められ、1991 年 8 月に朱鷺の生息する現地入りを果たしました。1993 年には NHK も現地入りをし、その様子が全国に放送されました。

その後、村本さんは現地の農民、役所の担当者、学校の児童や先生との交流を深め、トキ保護のために多大な資金援助を行い、絶大な信頼を得るに至ります。

1998 年、村本さんは春の叙勲の栄を受け、下賜された菊の御紋入り木杯と賞状の写真を持参して地元住民に報告したところ、その情報は中央政府に上がったものと見え、同年 11 月、時の江沢民中国国家主席の来日の際、一つがいのトキが天皇陛下に贈られるという思いもかけない展開になりました。そして、翌 1999 年 1 月に 2 羽のトキが佐渡に着き、そのトキといっしょに、中国の地元洋県から飼育主任 1 名も佐渡に入り 6 ヶ月間滞在、5 月にはひなが誕生という展開になり、ここから日本におけるトキの復活が始まりました。

この経緯については、後で紹介する書籍「角地耕三、のとの大空にトキが舞う、能登印刷出版部、2026 年 5 月 20 日、ISBN978-4-89010-869-5」にくわしく書かれていますので、ぜひお読みください。前述の「石川県観光公式サイト ほっと石川旅ネット 半世紀越しの願い・・・村本義雄さんが語る朱鷺と能登」の「中国との交流」の内容を裏付け、補うものとして重要です。

■村本義雄物語の必要性

佐渡の野生復帰も進み、今年 2026 年 5 月 31 日に本州での初の放鳥も行われました。ここに至るまでの関係各位の苦労の賜であることは言うまでもありませんが、そもそものきっかけをつくり、今日の成果へと続くその方向性を確かなものにしたのは、村本さんの壮大な夢と確たる見識によるものであると私は思っています。

しかしながら、地元石川県のそれは別として、最近の報道や様々な保護団体の説明からは、そのことがすっぱり抜け落ちているような気がしてなりません。最終的には国家間の約束でもあり、環境省はじめ数多の関係各位のご尽力によるものとは思いますが、民間外交の成果だなどと持ち上げるだけで、果たしてそれでよいのでしょうか。村本さんのトキに対する純粋な思いが、私財をはたいてまで国際保護鳥であるトキを守ろうとしたその意思と情熱が、中国の地元だけでなく、

ついには、中央政府の心まで動かして実現したということの重さを忘れてはならないと思います。いったん失った自然を回復させる、いったん絶滅してしまった生物を復活させることの難しさというものを、私たちはこのトキを例に深く学び、村本さんのお言葉にもあるように、同じようなことを繰り返すことのないようにする必要がありますと思います。

とは言うものの、村本さんの著作はじめ様々な記録を読めば、事実とその経緯を知ることだけでも、携わった方々の思いや願い、当時の背景にまではなかなか理解が及びにくいものがあります。そこで、私はかねがね「村本義雄物語」が必要であると思っていました。

■角地耕三 著「のとの大空にトキが舞う」の出版

そうしたら、何と以下の書籍が放鳥式に間に合うように出版され、私も村本さんから1冊いただくことになりました。



角地耕三、のとの大空にトキが舞う、
能登印刷出版部、2026年5月20日、
ISBN978-4-89010-869-5

拝読してみて、私の求めていたものは正にこれだと思いましたので、著者の角地耕三氏に手紙を書き、合わせて気付いた点を記して正誤表の案をお送りしました。そうしたら、角地さんから電話をいただき、出版社と相談して、第1版は正誤表付きで販売を継続するが、改訂版を追加でお出しになるとのことでした。

体裁は絵本で、ご自身の手になる優しさに溢れた挿絵と、子供でもわかりやすい平易な文章で構成されていますから、子供から大人まで幅広く読めるものになっています。そして、村本さんの思いや願いを深い敬意を以て角地さんが受け止められて形にしたものですので、両者の人柄が相まって、深く心に響くものがあります。皆様にもぜひお読みいただきたいと思います。

なお、この10月には北國新聞社から、村本さんのおそらく伝記だろうと思いますが、出版されるとのことです。こちらは、大人版としての価値が高いものになるのではないかと期待しています。

■村本さん 羽咋市名誉市民に

理由は以下の資料に書かれていますので省略しますが、2026年7月1日、村本さんに羽咋市名誉市民証が贈呈されました。おめでとうございます。

○広報 はくい No. 890 2026年8月

<https://www.city.hakui.lg.jp/material/files/group/3/kouhuhakui202608.pdf>

当該ページはP1～3です。

「村本義雄氏の歩み（略歴）」も端的にまとめられています。



■トキの能登への定着を見届けるまでお元気で

地元の農家の方々は、佐渡の農家の方々から指導や助言をいただきながら、地道な努力を続けていらっしゃるとのこと。それでも、トキが安心して住める環境が整うまでには、まだ時間がかかるようです。石川県トキスーパーバイザーの村本さんのお仕事はまだまだ続きます。トキが能登に住み着くその日を見届けるまで、村本さんの益々のご活躍をお祈りしています。